



2009年(平成21年) 3月16日 月曜日

発行所:十勝毎日新聞社  
〒080-8688  
帯広市東1条南8丁目  
電話(代表)0155-22-2121

## JAXA 宇宙往還機用エンジン 「カムイ」で性能実験



【大樹】宇宙航空研究開発機構(JAXA、東京)と北海道(帯広市)と北見市は16日午前、大樹町多目的航空公園付近の原野で、道産機「カムイ」が開発した同エンジンの性能実験を行った。JAXAがロケットを外部に委託して実験を行っ

たのは国内で初めて。NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC、札幌)が開発した同エンジンは、2基打ち上げられ、いずれも成功した。

JAXAは2002年から宇宙輸送機用の複合エンジンを開発。同エンジンはロケット出力の調整や燃料の噴射バ

ターンをさせることで、音速や超音速など4つの異なる運転状態をつくり出す。今回は離陸から加速までの場面を想定し、マッハ以下の亜音速の「エジクタージェット」部分のテスト。全長3.4m、重量25tで、ポリエチレンと液体酸素を組み合わせた燃料のハイブリッドロ

JAXAの外部委託で打ち上げられたカムイロケット(16日午前8時17分、塩原真撮影)

ケットを使用。機体周囲の酸素を取り込み、推力に変えて加速させる空気取り入れ口をロケット後方部分に作り、圧力計を8個設置した。

この日は関係者や一般見学者が見守る中、午前7時20分ごろと同8時20分ごろに2回打ち上げ。いずれもマッハ

0.3(秒速約300m)ほどまで加速し、高度約500mまで到達した。

終了後に記者会見したJAXA宇宙輸送系推進技術研究開発センター研究領域リーダーの植田修一さんは「得られたデータを有効活用し、今後のエンジン開発につなげたい」とし、カムイについては「使い勝手が良く、今後も同様の環境が必要な実験があれば活用したい」と話した。

(北雅貴)